

人生ハンド仏句

第156号

H. 27. 3. 1

(毎月1日発行)

無常

住職 谷川寛俊

仏教の根本思想に「無常」という教えがある。物も命も、全ては移り変わっていくという考え方です(諸行無常)。そう言う、「命は、はかない」などと虚無的(むなし)に受け取られることもあります。確かに、東日本大震災のような、大自然を前にした人智の及ばないことを感じ、人間は無常から逃れることが出来ないと思身沁みて知らされます。しかし無常は、悲観的にばかりとらえるものではありません。無常だからこそ、お互いの命を大切にすることが生まれ、慈悲の心をもって生きようと思心湧いてくるはず。たとえば、誰かに花束をプレゼントする時された時、造花ではなく生花の花束を贈られた方が、より一層大切に扱う様な気がします。造花には無い生花ならではの香りや、花本来の命を感じる事が出来る所以でしょうか?ただ造花と違い、生花の花束

は数日で枯れてしまいますから、無常と言えば無常です。しかしだからこそです。枯れていく命ゆえに、人はその美しさを愛おしみ大切にするのでしよう。

過日ある書籍を読んでいると、歌手で女優の宮城まり子さんが、肢体不自由児の為の施設として「ねむの木学園」を開設されたというお話が掲載してありました。身体不自由児の子供達が集まる施設ゆえ、子供達が使用する食器などは、子供達が壊してしまう恐れがあるという事からプラスチック製の食器を使っていたそうです。しかし宮城まり子さんは、それらを全て瀬戸物の食器に替えたそうです。それについて宮城さんは「確かに、子供達はすぐに器を壊してしまうかもしれない。でも壊れない器で食べていたのでは、心の成長にとってよくない。どのようなのであっても、いつかは壊れる。けれども、壊れるからこそ大切に扱う。大切に扱えば愛情が湧いてくる」と述懐されています。

また仏教詩人の坂村真民さんは「一切無常」という詩で無常を分かりやすく

「人生ハンド仏句」

と打ち込んで頂けば、ホームページにつながります。

編集・発行

玉蓮山 真成寺

編集部 谷川久仁子

TEL・FAX 0765-22-2268

携帯 080-3744-2523

こちらの番号でもお寺につながります。

く表現されています。その詩を紹介いたしますので、是非じっくり味わってみて下さい。

『散ってゆくから 美しいのだ 壊れるから 愛おしいのだ 別れるから 深まるのだ 一切無常 それゆえにこそ 全てが生きてくるのだ』

私達は今、手間が省ける便利な暮らしに慣れすぎて、命の尊さを見失っているように思います。しかし考えてみると、物を見るのも、耳で聞くのも、舌で味わうのも、あれこそ思案するの、心あればこそ、命あればこそ出来ることです。自分の命が掛け替えのない大切なものであると自覚した時、周りの人も、草も、花も、鳥も動物も、自分と同じように無常の中で尊い命を生きているのだと気がつくはず。そして何と言っても、両親を縁として頂いた自分の命です。更にその両親の両親という風にずっと遡っての命です。言うならば選ばれて生まれ来た命(存在)なのです。便利な日々の生活の中で、一度立ち止まり、命の原点に立ち返ることが必要なのではないのでしょうか。時には手間を惜しまず料理をして

じっくり味わったり、ユックリ深く呼吸をしたりしてみても下さい。改めて命のあることを身体で感じ、しみじみと命のありがたさを実感する事が出来ると思います。

